

■ ジャズベースに熱中 松本純氏



「一定のリズムで弾き続ける。休憩はなく、指先が痛む。派手さもない。だけど、なげりやジャズは成り立たない。縁の下の力持ちだな」。自民党の松本純衆院議員(55)は政治信条にダブらせるようにジャズベースの魅力を語る。今も東京薬科大の軽音楽部で一緒だった仲間と年一回はステージをともにする。

記者
手帳

「縁の下の力持ち」魅力

好みは昔の映画音楽など、だれもが聞き覚えのあるようなスタンダードナンバーだ▼聖光学院中学時代、同高校に在学中だった鈴木康博さんからウッドベースを借りたのがきっかけ。鈴木さんは小田和正さんらとバンドを組んでいて、後に「オフコース」としてブレイクする。高校進級後は大学生のジャズバンドから勧誘されて熱中。一年生を二年間やる羽目になったが「同期生が二年分いるのは選挙の強み」と胸を張る。思わぬ出会いもあった。バンド仲間の妹と一緒に見学に来た女の子に一目ぼれ。それが今の真純夫人だ▼所属する旧河野派の麻生太郎外相は「ポスト小泉」候補の一人。

「ジャズバンドに例えればトップロのアルトサクソ。メロディーを引っ張ってほしい」と期待を込め、自らは縁の下でリズムをきざむ構えだ。(豊)